

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 4月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0191500057		
法人名	株式会社 鈴木総合サービス		
事業所名	グループホーム 平里の家		
所在地	北海道山越郡長万部町字平里43番地23 (電話)01377-2-6363		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月22日	評価確定日	平成22年4月16日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 10月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人、	非常勤 2人、 常勤換算 14.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り	平屋建て
	1階建ての		1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:15,000円 日常生活費:10,000円 暖房費:8,500(10-4月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,150円			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	7 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 69 歳	最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長万部町立病院、河井歯科医院、やぎ歯科医院、勤医協黒松内診療所
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長万部町は函館市より北に約100Km、北海道では「道南」というブロックに位置し、国道5号線を北上して小樽市へ、又、ここより右に折れて国道37号線を進むと室蘭・苫小牧市に進む交通の要所でもある。鉄道では函館本線、室蘭本線の分岐点でもある。「グループホーム平里の家」は長万部町の市街地から少し函館よりで、国道からわずか山あいには折れた自然豊かな所に位置している。「利用者の方々のそれぞれのペースに合わせ、個性を尊重し…」の理念を実践すべく、職員共々利用者の笑顔を増やすべく力を注いでいる。外部評価は今回で2回目であるが、初回の改善課題に積極的に取り組み、職員の研修にも力を入れており、更なる飛躍を期待する事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「ユニット毎に自己評価を行う課題」についてはユニット毎の職員が自己評価を分担し、共通項目については両ユニットで話し合いを行いまとめており改善されている。運営推進会議に「家族の参加が限定されている課題」についてはそのままであり、多数の家族が参加できる状態には至っていない。今後の改善が望まれる。意見箱の設置は既に行われており改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に職員が自己評価を分担し、共通項目については両ユニットで話し合いを行いまとめており取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6)
	今年1月末の運営推進会議での議題は、厚生労働省の実地指導が入ったのでその状況を報告している。運営推進会議の参加メンバーより意見を頂戴し、業務の改善につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と話し合える機会を持ち気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。現在、苦情は持ち込まれていない。家族への月1回の利用料請求時に合わせて、金銭出納帳をコピーして報告している。又季節の行事などの写真を載せた機関誌「ふらっとほーむ」などを添えて、利用者の様子を伝えている。金銭出納帳について鉛筆での記載と照合印もない点については改善が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	施設は近所の家々と離れた所に位置しているが、町内会に入会しており、町の行事や町内会の行事(新年会、敬老会)に参加している。近くに小学校があったが、統廃合によりこの3月になくなるとのことである。利用者の方々の笑顔を増やす点でも今以上にボランティアを受け入れていくことを望む。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”利用者の方々のそれぞれのペースに合わせ、個性を尊重し...”という事業所独自の理念を掲げている。街の郊外に位置し、近隣の家より少々離れてはいるが、町・町内会との交流を積極的に行って地域とつながっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝・夕のミーティング時に唱和し、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町や町内会の行事に参加している。小学校の行事に参加したり、小学生が訪れたりして地域との交流も盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に職員が自己評価を分担し、共通項目については両ユニットで話し合いを行いまとめており取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年1月末の運営推進会議での議題は、厚生労働省の現地指導が入ったのでその状況を報告している。運営推進会議の参加メンバーより意見を頂戴し、業務の改善につなげている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者も多数入居しており、法令や運営基準などについても連絡を密にとってサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への月1回の利用料請求時に合わせて、金銭出納帳をコピーして報告している。又季節の行事などの写真を載せた機関誌“ふらっとほーむ”などを添えて、利用者の様子を伝えている。		金銭出納帳について鉛筆での記載と照合印もない点については改善が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と積極的に話し合える機会を持ち気軽に話し合える雰囲気作りに努めており、意見や不満を表わせるように心掛けている。来所者からの意見収集についても事務所に「ご意見箱」を設置している。		家族会の開催を進めていく気運があるので、積極的な取り組みを望む。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には引き継ぎを十分に行い、混乱を引き起こさないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員を育てるための研修（介護福祉士、ケアマネジャー）に積極的に取り組んでおり、外部研修に参加させている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に4～5回道南のグループホーム協議会を通して交流し情報交換している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に本人・家族と十分面談し何回か検討を重ねた後で入所されている。入居後も利用者の状態にきめ細やかに対応するため、家族に電話連絡などして、馴染めるように工夫しながらサービスを行っている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者との会話から学ぶことも多く、積極的に利用者として行こうと心掛けている。食器拭き・洗濯ものを畳む・ジャガイモの皮むきなど、職員と利用者は一緒に過ごしながらか共に学び支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の本人・家族の面談から利用者の生活歴を把握している。職員は一人ひとりの思いや意向を組み、日々のケアに取り組んでいる。		本人の生活歴は入所時のみのものであり、その後の生活歴の記載がない。職員個々のメモにはあるので共通の情報として整備し、より良い利用者のケアに結び付くことを期待し、取り組みを望む。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3段階方式を取り入れている。アセスメントチェックシートを各担当者に渡して記載してもらい、管理者に渡す。管理者は問題点を洗い出し短期・長期の目標を立てる。これらをユニット会議や職員会議にかけてケアプランをまとめて介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は1週間から10日間でモニタリングし、その後介護計画の見直しも3ヶ月毎に行っている。家族の意向や状況の変化により随時見直しを行い、きめ細かに作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・買い物・受診対応など様々な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>町内の協力医療機関はもとより、町外の協力医療機関への送迎も行っている。適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの指針は作成している。今のところ対象者はいないが、ターミナルケアに向けて取り組もうとしている。</p>		<p>看護師の勤務体制や書類の整備を含めて、ターミナルケアの実現に向けての取り組みを期待する。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者のペースを大切にすることを基本として穏やかに優しく対応しており、プライバシーに配慮している。記録などについては、事務所で保管・管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。天気の良い日はほとんど散策などにも出かけ、一人ひとりの希望により臨機応変に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビを消して、利用者の希望を聞いて好みの音楽を流している。職員は一人ひとりの能力に合わせて、調理の下ごしらえや食事の準備、後片付けを一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月・火・木・金の内週2回の入浴プランを立てて、本人の希望に沿って支援している。お風呂は通常の大きさとお風呂の2ヶ所を用意しており、入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設は広い用地を確保しており、畑も広く春から秋は畑仕事や収穫を楽しんでいる。施設の周りは車の心配もなく散歩に適している。室内ではリハビリ体操・カルタ・百人一首など、一人ひとりに合った役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診日の送迎を通して外出気分を支援しており、利用者の希望により自宅を案内している。天気が良い日は施設前のウッドデッキでお茶を楽しんだり、近所に散歩に出かけ利用者の五感を刺激し、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には元々鍵が設置されていない。日中は玄関には鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と一緒に年2回(日中・夜間想定)避難訓練を行っている。「緊急警報自動システム」が設置されており、消防署とつながっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士がいるので食事の偏りがないよう支援している。水分量については個々に極端な偏りがないように、一日を通じて必要摂取量が確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋造りということもあり、共用の空間はゆったりとしており、程よく陽も射し込み明るく自然の温くもりが溢れている。両ユニットを行き交う通路も広くとられている。清潔が保たれており不快な臭いや音は感じない。		冬場は室内の乾燥が進むので、体調管理(特に風邪対策)のためにも、温・湿度に関する配慮を望む。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品があり、居心地良く過ごせるようになっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。